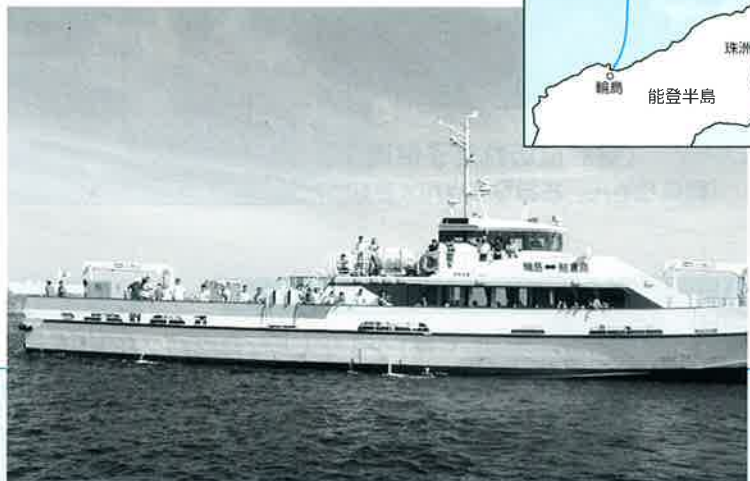


20回目の舢倉島

舢倉島総合診療を振り返って…



小森耳鼻咽喉科医院長
小森 貴氏



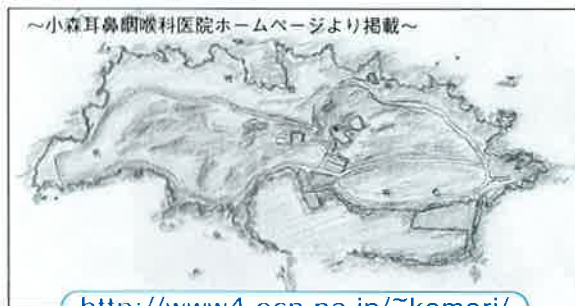
【定期船ニューへぐら】

舢倉島と輪島港は、定期船で約1時間半で結ばれている。小森先生が初めて渡島された20年前は1時間50分を要していたとか…。

— 舢倉島 —

輪島の北48kmにある周囲6km、最高所が12mという小さく平たい島で、岩礁に囲まれている。“島渡り”によって、アワビや海草を採る海士（あま）の島として名高い。北岸は人家はなく岩礁と断崖で深湾洞などの海食風景が見られる。竜神池、奥津比咩神社、恵比寿神社などがみどころ。島1周はゆっくり歩いて徒歩で60分程度である。

【舢倉島の全体地図】



<http://www4.ocn.ne.jp/~komori/>

— 舢倉島総合診療参加へのきっかけ —

当時、舢倉島の医療は自治医科大学からの島唯一の医療施設である舢倉診療所へ派遣される医師に託されていましたが、派遣任期が半年から1年、また医師の専門分野も異なるため、島民は継続された専門医療が受けられないという状況であり、結果、島民は自らの体に不調を感じても余程のことでない限り我慢してしまいがちであった。

当時、小森先生は石川県で唯一の離島である舢倉島に興味を持っていたこと、また閉ざされた地域（僻地域・山間地域・過疎地域）に対して自分の身を投じ、その地域住民の健康向上の為に一身を捧げてみたいと思っていたことから「舢倉島総合診療」参加を決意された。



【健診に訪れた子供達 1】

「智美ちゃん、さおりちゃん大きくなったじ！」



【健診に訪れた子供達 2】

「ヒロ！ぜんぜん大丈夫やぞ！」

— 島民の診療状況 —

(20年前と現在では…)

昭和58年、舩倉島での初めての耳鼻咽喉科健診を終えた小森先生は受診結果を振り返って驚愕されたとか…。

健診結果は、受診者32名（女性26名）の内23名が耳鼻咽喉科疾患を抱えていることがわかった。内訳は急性外耳炎8名、慢性外耳炎9名、内耳炎3名、鼓膜炎1名、その他2名でした。受診女性26名は全員が海女さんであり、このうち何らかの耳疾患が認められたのは22名、受診女性全体の85%と高率であった。

外耳炎の海女が多いことに気づいた小森先

生は、その背景を調べ彼女たちが耳栓代わりに使用する粘土の材質がよくないのではないかと疑われました。そこで当時シリコン素材の耳栓を無料で配布し、数年に渡り経過を見たところ、外耳炎がずいぶんと減少したと言います。

舩倉島ではもともと男女の喫煙率が高い土地柄であり、20年前に比べ近年では、耳からのどへと診療の力点を移しているそうです。最近では、咽喉ファイバースコープを用いた検査が副鼻腔X線検査やオーディオメーターとともに不可欠となっているとのこと。



【舩倉島での健診風景】

「少しだけ、我慢してね」
「先生！痛くないがに
上手にしま！」



【舩倉島島民健診スタッフ】

診療当初は私と看護婦と3人だけでしたが、今ではこんな大団体に成長しました。

ウウウ…ウレシー(--)

さて、私はどれでしょうか？

えっ！その太った人違うよー

(マズイ 痩せねばー)

—舩倉島総合診療のこれからの課題—

これからもこの「舩倉島総合診療」をずっと続けていくことが何よりも一番大事なことであり、年1回の専門診療を通じて島民たちの健康意識を高めていかなければならないと考える。また総合診療に参加してくれるスタッフ全員が「参加して良かった」、「いい思い出になった」など、それぞれの立場で思えるような雰囲気づくりが必要なのではないかと小森先生は考えておられます。



【総合開発センター（舩倉診療所）】

島の一番高台にあるセンター。

中には保育所や診療所があります。

診療所長の家はセンターの2階です。

津波の恐れがあるときは島民センターに避難します。

【舩倉島における医療の歴史】

1955（昭和30）年ごろ	舩倉診療所開設（初めて医師が常勤）
1979（昭和54）年	医師の死去により無医島に……
1980（昭和55）年 夏	疋島一徳医師（自治医科大学1期生）が初代診療所長として着任（以降、自治医科大学卒業生が交代で診療所に赴任）
1983（昭和58）年9月	小森貴医師が初めて舩倉島へ渡り島民健診にて耳鼻咽喉科診療を実施 島民健診に眼科が加わる
1985（昭和60）年	診療所が総合開発センター内に移転
1988（昭和63）年	島民健診に外科が加わる
1989（平成元）年	島民健診に内科が加わる
1998（平成10）年	島民健診に心療内科が加わる